

山筆

第48号／2010年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋 (41回)

TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa-office@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/



『新聞向陽』創刊号(右上)と『向陽新聞』『土佐高校 歌のアルバム』など。10頁に関連記事

司法とマスコミ

堀内稔久 (32回生)

昨今、裁判員制度や検察審査会など国民が司法に参加する機会が増えた。危惧されるのは、国民の意見と持ち上げられているのが、メディアにとにかくに流された結果ではないかということである。

私が弁護士になりたてのころ、白昼、JR巣鴨駅の女性便所で若い女性を殺害して駅構内で捕まった犯人の国選弁護人をしたことがあった。検察は犯人から動機について金を奪おうと思って殺しましたという供述を得て、強盗殺人罪で起訴した。

私は、死刑か無期懲役しかない重大事件で、犯意の供述があまりに抽象的で具体性がないと考えた。東京地検の優秀な検察官が熱心に追及した筈の犯意をこの程度の供述で金品強取と認定するには論理が上滑りしていると思われた。

しかし、重大事件の場合、取調検事の判断ばかりでなく刑事部長や次席検事等までも決裁をして慎重に起訴している筈である。

結果として、裁判所は、私の弁論要旨をそっくり書き写したような理由で強盗の犯意を認めず単純殺人と認定し、検察も控訴を断念して一審で確定した。

私が主張したのは、検察の供述調書は抽象的すぎて具体性がない、つまり金を奪おうと思った根拠、女性の服装や持ち物が裕福そうで金をもっているように見えたとか、金を出せと声を掛けたとか、ハンドバッグを奪ったとか、具体的な裏付け供述で固めているべき筈なのに欠けているのではないかと、犯人は変質者であったに過ぎないという点である。

最近の小沢一郎氏の政治資金をめぐる事件は、まさに秘書の供述調書が抽象的で具体性がないという判断と、いや共犯として起訴するに充分な供述であるという判断との間で揺れている。検察が面子をかけて必死に捜査をしながら抽象的な供述しかとれないことはやはり、その程度の筋に過ぎないのであろう。検察の「従軍記者」と揶揄されるようなマスコミが垂れ流す報道を無批判に国民が受け入れてはならない。国民の責任は以前より重大になっている。

平成22年度関東支部総会・大懇親会

平成22年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会・講演会及び大懇親会は、6月5日(土)、霞ヶ関ビル東海大学・校友会館にて行われました。300名余の同窓生が参加し盛大に挙行されました。

母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。

記念講演は、ノンフィクション作家・評論家の塩田潮氏(40回)「写真の「政権交代



と日本のデモクラシー 参院選後の政治を読む」と題する講演でした。ちょうど民主党の首班の交代があったばかりで、時宜を得た話題を実に流暢な語り口で約一時間語っていただきました。同窓生一同熱心に聴講いたしました。今年(0の回生(30、40、50、60、70、80)の同窓諸氏による総会・懇親会の運営がなされました。



大懇親会

大懇親会は、霞ヶ関ビル35階のホールから大東京の夜景を眺めて美味しい料理を頂きながら、新旧同窓生、一年ぶりの再開を楽しみました。



司会は80回生



乾杯の音頭は宮地土佐高理事長



開会の挨拶は30回生浅井さん





↑アイスクリンをなめながら

↓今年卒業の85回生 集合！



70回生 集合！→

←80回生 集合！

83回生 集合！↓



0の回生から1の回生への幹事引継ぎ式



関東支部活動報告

今年には公式行事としては、2月27日に学年幹事会、6月5日に関東支部総会が行われました。

学年幹事会で役員改選が行われ、野村京生さん(29回)と金澤由里さん(55回生)が退任され、新たに会計監査に幸徳正夫さん(37回)、会計幹事として川上正衡さん(58回)が選任されました。

就任のご挨拶

会計幹事 川上正衡(58回生)

(かわかみたひら)



初めまして。この度、金澤由里さん(55回生)の後任で会計の大役を仰せつかりました58回生の川上正衡でございます。新参者ですが、可愛がって頂ければ嬉しく思います。

さて、私が土佐中高同窓会関東支部(以下「同窓会」)

の皆様と懇意にさせて頂くこととなったきっかけは、2008年2月に一人の女性から届いたメールでした。58回生はメーリングリストでよく遣り取りをしており、その中で「今度の総会は『8の会』が担当やけん、58回生は私一人しかおらん。誰か来てくれんろうか」という悲痛な叫び(泣きごと)が綴られていました。私は、送信者である岩橋(旧姓：石川)真理さんと学校時代にはほとんど言葉が交わったことがなかったのですが、あまりに可哀想に思えたため、「一回ぐらい行つてあげるか」と、とても軽い気持ちで、様子だけ見ようと会合に参加しました。すると、いつの間にか『8の会』のお手伝いをする事となりました。そして、2年後には同窓会の会計の役目まで回つてきました。

あまりにスムーズに事が運びましたが、今考えると、すべては巧妙に仕組まれた罠だったような気がします。2年前の岩橋さん(58回生)のメールで誘い出された川上を、総会世話役の西森さんと(57回生)、幹事長の市川直介さん(53回生)、事務局長の二

宮澤さん(49回生)らが共謀して、「川上くんなら大丈夫。」

「川上くんなら、できるにきまつちゅう。」「何でも困ったことがあったら、相談してきいよ。」「本当にありがとう。」と、勇気付け工作、褒め殺し工作、いつも親身やき工作、感謝しちゅうき工作などを適時行つたことで、お三方の狙い通り川上は有頂天になり準備は整いました。

そして、遂にその時がきました。市川幹事長から電話があり、「少し手伝つてもらいたいことがある。」と、これまでにないほどの厳しい口調で言われました。もちろん、断ることなどできません。

「はい、畏まりました。私ができることであれば、何でもお手伝いします。」とお答えしたところ、「会計をやつてもらいたい」との要請でした。私はもう一度、「はい、畏まりました」とお答えするしかありませんでした。

2年前まで疎遠であった同窓会と縁ができたきっかけは、同級生でありながら学校時代にほとんど言葉交わしたことのない岩橋さんからのメールでした。その後、同窓会を通じて、多くの諸先輩方や後

輩に出会いました。もちろん、ほとんどの方と言葉を交わしたことがありませんでした。

しかし、この2年余りで、多くの同窓生と言葉を交わすようになりました。少しずつ言葉を交わし、顔を覚え、そして年代を超えて仲間が増えました。これからも、仲間は増えていくことでしょう。このような機会を与えてくれる同窓会に、私は心より感謝しています。

会計を通じて、同窓会に少しでも貢献できれば幸いです。精一杯お手伝いしますので、よろしく願います。

母校だより

学校長 池上 武雄(28回生)

皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。いつも母校に対し格別のご支援をいただいておりますこと心から感謝申し上げます。

◇新校舎竣工記念式典ほか

お陰様で新校舎が無事竣工できましたことをご報告いたします。ご協力、ご支援賜わりました同窓生の皆様方から御礼を申し上げます。

昨年11月18日、本校創立記

念日に新校舎竣工記念式典をとり行ないました。定礎式ならびに竣工式の神事に続いて新体育館で全校生徒、大勢のご来賓の参加のもと記念式典を挙行、宮地貫一理事長の式辞や、海外出張中の為、尾崎正直高知県知事(61回生)からの大スクリーンでの祝辞などが印象的でした。また、同日午後6時から城西館での祝賀会を開催、中澤卓史高知県教育長(45回生)の激励と乾杯の音頭で祝宴が大いに賑わいました。ご芳志をいただきました皆様全員をお招きできま

せんでしたが、高知にお帰りの機会にはぜひ新校舎をご覧下さい。

◇新校舎記念写真集の出版

本校広報部の山口喜久先生が、今回の校舎建築工事の進行過程を2カ年にわたり撮影し、本校ホームページに掲載し続けてこられた沢山の写真の中から特選した90枚程を一冊の本にまとめ「技・魅せられて」と題して出版いたしました。ぜひご覧下さい。

◇新校舎建築募金について

平成22年3月末日現在、件数4,563件、金額284,828千円となっております。有難うございます。

◇大学入試結果について

本年卒業の85回生は、
active & positiveのスロー
ガンをかかげ、何事にも積極
的なチャレンジ精神で頑張っ
て来ました。また捲土重来を
期した84回生達も大いに頑張っ
てくれました。その結果は次
の通りです。

	22年度	21年度
現役合格率	70.6%	68.8%
国立難関10大学	51名 (現31名)	48名 (現25名)
国公立医学部		
(医学科)	31名 (現15名)	25名 (現14名)
計	82名 (現46名)	73名 (現39名)
国公立現役合格	106名	104名

(注) 難関10大学 (旧帝大・一橋・東京工. 神戸)
本年度 東京大合格 7名 (内、理Ⅲ 1名)
京都大合格 9名 (内、医・医 1名)

◇高校校体の成績

5月22日から3日間の日程
(水泳は6月12日・13日)で
開催され、本校からは18種目
に男女307名(県下参加校

47校中最多選手数)が参加し、
降雨による一部日程の順延も
ありましたが、よく健闘し次
の成績をあげました。

団体優勝は、ハンドボール
(男子)、バドミントン(男
子)、登山。

惜しくも準優勝に、バレー
ボール(男子)、卓球(男子)、
ソフトボール。

第3位に、陸上(女子、学
校対抗)ハンドボール(女子)、
バドミントン(女子)、自転
車(学校対抗)。

個人優勝は、陸上男子40
0m、やり投げ、女子200
0m、400mリレー、160
0mリレー、走り幅跳び、剣
道男子、バドミントン男子ダ
ブルス、女子シングルス、自
転車男子スプリント。

なおインターハイは、7月
28日から沖縄県(登山のみ鹿
児島県)で開催されます。母
校の名譽を担つての活躍を大
いに期待しております。

◇高1生の修学旅行

11月23日から27日まで東京
京都での高1生修学旅行が予
定されています。関東一円で
のコース別研修では、いつも
同窓生の皆様に格別のお世話
様になっております。どうか
宜しくお願い申し上げます。

暑さに向う折柄皆様のま
すますのご健勝、ご活躍を祈
念申しあげ、近況報告とさせ
ていただきます。

(平成22年5月末日)

本部だより

副会長 徳永 俊一(49回生)

関東支部のみなさん、こん
にちは。昨年8月の総会で、
副会長を拝命いたしました徳
永俊一(49回)と申します。

宜しく願いいたします。
「龍馬伝」「パーマネット
野バラ」「君が、踊る夏」な
どなど、今年は、テレビ・映
画で土佐弁を聞く機会が多く
あります。関東地区に在住の
皆様も懐かしく耳にされてい
る事と思います。このGWは
多くの観光客で土佐路もにぎ
わいました。尾崎高知県知事
(61回)もこの機会に高知を
全国に発信しようと頑張っ
ておられます。

さて、同窓会本部も昨年、
岡内会長(34回)、西山幹事
長(48回)以下、新しい体制
で出発し、はや一年が経とう
としています。この間の新た
な取り組み、事業、また課題

も含めてご報告し、同窓生の
皆様と情報を共有し、協力一
致の体制を作りあげる事が出
来ればと思う次第です。

一、新同窓会名簿管理シス
テムについて

従来、同窓会の名簿管理は
基本、本部にて管理しており
ましたが、支部においても独
自の名簿管理システムがあり、
情報のタイムラグ・会員情報
の更新作業・新同窓生の会員
情報の収集等で色々の問題が
生じておりました。

関東支部からの提案で、昨
年の夏以来、諸問題を解決し、
本部と各支部の同窓生の会員
情報を一元的に管理する名簿
管理システムに取り組んでお
ります。それにあわせて、新
たな個人情報管理体制も見
直しております。

この新名簿管理システムは、
色々な機能を取り入れ、単に、
会員情報の管理にとどまらず、
同窓会活動の活性化に大いに
寄与するものと思います。

二、2010同窓会名簿の発
行について

今年には5年に一度の同窓会
名簿の発行の年です。北村副
会長(47回)はじめ、担当の
皆様の献身的なご努力のおか
げで、今回も無事に発行の運

びとなることと思います。土
佐校の同窓会名簿の発行事業
は多くの同窓生の皆様のご支
持を頂き、またその絆を新た
にし、同窓会活動の活性化に
はなくてはならないものです。

すでにお手元に送られてい
る調査票へのご回答、広告協
賛等、皆様の積極的なご協力
をお願いいたします。

三、新校舎落成、創立90周年、
筆山ホール記念講演会

本年度は新校舎落成・創立
90周年の記念事業として、総
ガラス張りの筆山ホールにて
の記念講演会を予定しており
ます。

第1回は、この3月に尾崎
高知県知事をお迎えして、多
くの皆様の来場を頂いて開催
されました。第2回は8月14
日のホームカミングデーにて、
同窓会総会に引き続き、岡村
甫高知工科大学理事長(32回
生)の講演を予定しております。
第3回記念講演は、11月
18日(開校記念日)に、講師
に尾池元京都大学総長(34回)

四、これからの同窓会活動活
性化について

ここ数年の同窓会活動の課
題の一つに、新しい回生の会
員情報がなかなか把握できな

い、名簿に空白が目立つという事があります。

そのような、状況を改善するべく、新しい回生への代表幹事・クラス幹事の選任の声掛けをしております。このことは、なにも新しい回生のみならず、全ての回生の代表幹事・クラス幹事の皆様に対しての日頃よりのコミュニケーションが、同窓会活動の活性化の要となることと思います。そして、各支部の皆様との連携もより一層、密にして、同窓会活動の活性化を図ってゆきたいと思ひます。

五・2010ホームカミングデー開催のおしらせ

日時 8月14日(土)。

現在「ゼロの会」が実行委員会を組織して企画しています。免震構造見学会、筆山ホール講演会(岡村甫高知工科大理事長・32回生)、総会、懇親会など、7月上旬にご案内を発送する予定ですので、是非ご参加ください。

北海道支部だより

事務局長 山本隆昭(53回生)

関東支部の皆様こんにちは。北海道支部の山本です。今年

は全国的に天候が不順ですが北海道もなかなか暖かくなりません。先日は最低気温が氷点下の所があったそうです。ただそうはいっても5月ですから札幌でもやっと桜が咲いています。去年はゴールデンウィーク中に満開となっていた日高地方の静内の桜並木でもやっと咲き始めたようです。札幌もそろそろ終わりかなと思います。山に行けば6月いっぱいぐらいまではまだ花見が出来ますので、山に登っても桜を見たいという方がいらつしやいましたら是非北海道においで下さい。

4月からこの時期は例年車のタイヤ交換の時期ですが、今年の様な天候の時はタイヤ交換をいつやるかが問題となります。早すぎると雪が降った場合車が使えなくなり遅くなるとスタッドレスタイヤでは燃費が悪く、また止まりづらいので運転に注意が必要で。ちなみに札幌で一番遅かった降雪は5月25日だそうです。北海道のべしといつたところでしょうか。

さて、北海道支部の近況についてお知らせしたいと思います。同窓会の支部として一番新しい北海道支部ですが、

発足以来6年目になりました。昨年は役員改選の年でしたが、新役員については、昨年の11月21日に行われた支部総会で承認され、新体制の役員が決定しました。この支部総会には学校より三浦教頭先生はじめ3名の来賓の方にご参加いただき、北海道支部の9名と合わせて12名で行われました。例年役員以外の会員の出席が少ないのですが、昨年も役員以外では3名の出席でした。北大の学生にも何人か同窓生がいるとのことなので、何とか学生会員にも出来るだけ多く出席してもらう様に何か方法を考えたいと思つています。昨年は11月でちよつと寒い季節の総会となりましたが、今年はまだ少し北海道で季節が良い時期に開催したいと思つておりますので北海道観光を予定されている方がいらつしやいましたら是非日程を調整してご参加下さい。なお、昨年の総会で承認された新役員は、

支部長(幹事長兼任)

和田健夫(44回)

事務局長 山本隆昭(53回)

幹事 田原哲士(37回)

武田 光(38回)

先川信一郎(45回)

山内千佳(53回)
石川多香(68回)

の7名です。以前より少しコンパクトな役員会になっていますが宜しく願ひ致します。昨年のホームカミングデーに初めて参加しましたが、施設はほとんど完成していて、旧施設で残っていたのは体育館のみでしたが現在ではもう無いかと思います。また新校舎最上階の筆山ホールからの眺めがすばらしく、筆山を目の前に眺めることができました。

北海道支部も活動を始めて6年目になりますが、まだまだこれからです。関東支部の皆様にもこれからお世話になることもあるかと思いますが北海道支部をよろしく願ひ致します。

東海支部だより

幹事長 村山文世(41回生)

関東支部の皆様こんにちは。天候不順の春もどうやら過ぎて暦の上では初夏。東海支部の近況をお伝えします。

最近高知への緊急な用事が多々あり、その際を利用していたJALの県営名古屋空港

―高知龍馬空港便が再建計画で来年4月に廃止予定との事でこの先不便になります。

昨年からのトヨタショック以来、東海地方は重苦しい雰囲気包まれておりましたが、ハイブリッドカーのプリウスは依然好調で、それに牽引される様に少しずつではあります。地道に景気は回復のきざしを見せ始めています。

明るい元氣の出る話題は先ずはスポーツ界から。去る2月にバンクーバーで行われた冬季五輪女子フィギュアスケートで、地元中京大学の浅田真央選手の頑張りには多いに元氣づけられました。5月ゴールデンウィークの最中、名古屋和合での中日クラウンズ最終日。石川遼選手が12アンダーという超驚異的スコアで逆転優勝しました。しばらくはこの話題で持ちきりでした。プロ野球中日ドラゴンズは、まだまだ手探り状態で戦っていますが、そのうち軌道に乗って行くと思います。サッカーでは64回生瀬沼幹事が名古屋グランパスを熱烈に応援して、今年是一段とレベルアップ、ついでに南アフリカのワールドカップにも応援にはせ参じる予定です。サッカーの土産



話が今から楽しみです。

さて東海支部では総会を5月22日に例年通り名古屋駅近くのキャッスル・プラザホテルで開催しました。土佐高校からは池上校長先生に御出席頂き、母校の近況、大学入試結果等の報告があり一同おいに元気づけられました。本部からは、西山幹事長に出席頂き竣工後の100周年に向けて更に一段と母校を支援するとの力強い報告がありました。関東支部からは佐々木泰子副幹事長に出席して頂きありがとうございます。関東支部の今年度の総会、はちきん会等活発な活動をお伺いし羨ましく拝聴いたしました。その他関西、広島、香川支部からも出席して頂きました。更に、特別参加として今年も上治馬路村村長ははるばる駆けつけて下さりました。恒例

の馬路名産のお土産をジャンケンで勝者に配る余興で会場は興奮のルツボとなりました。どうも有難うございました。

東海支部は相変わらず少人数ではありますが、毎月の有志による二水会、冬期懇親会、中部高知県人会等、支部会員一同がんばって活動に取り組んでいます。併せて甲子園のセクターポールに上がる校旗を眺めて向陽の空を歌える日が来ることを夢見ております。最後に関東支部の皆様のご健康と益々のご発展をお祈りして東海支部便りとさせて頂きます。

関西支部だより

幹事 福島充也(69回生)

関東支部の皆様はじめまして。69回生、野球部出身、母校の甲子園出場を、まだまだかと関西で待ち続けております福島でございます。

さて関西支部では、去る4月3日(土)に関西支部総会を開催いたしました。当日は母校から池上校長先生、岡内同窓会会長、関東支部からは二宮事務局長を始め多くの来賓の方々にご出席いただき

ました。特に今回は特別ゲストとして中澤節子先生にもお越しいただき、大いに宴席を盛り上げていただき、無事に終えることが出来ました。ご多忙の中、本当に有難うございました。

この度の総会ですが、少し趣を変えた企画にて実施しました。今まではホテルなどの会場で総会・懇親会のみを開催しておりましたが、今回は総会の前に「お花見舟」と題した、大阪水上バス「アクアライナー」にて大川の両岸に咲く桜を眺めるクルージングを楽しみながら総会会場へ向かい、総会の会場もテラスのあるお洒落なイタリアンレストランでライトアップされた夜桜を楽しみながら皆で語り合おう…という企画です。

この水上バスですが、大阪市の中心を流れる大川沿いに大阪城港、八軒家浜船着場、淀屋橋港、OAP(大阪アメニティパーク)港の4ヶ所の乗り場から発着するたくさんの遊覧コースがあり、いくつもの橋をくぐりながら歴史あふれる大阪の名所・旧跡の数々を川面から見物できる大阪の人気観光スポットです。その中で今回は、大阪城港に集合

し総会会場のあるOAP港までの約40分、特に桜で有名な桜ノ宮公園の間を通り抜けるコースを選びました。

案内状を発送してからというものの、出席状況については当たり前ですが、当日に桜は開花しているのか…、雨は降らないか…など、幹事一同天気予報とにらめっこする毎日でしたが、お陰様で快晴に恵まれ、しかも桜の開花状況はまさに満開、4千本を超す桜が私たちを迎えてくれました。

この初めての企画も大好評に終わりホッと一息ついたところですが、来年度も同じ内容にて開催する運びとなりました。企画した幹事としては非常に喜ばしいことなのですが、また1年間、参加者を集めるという悩みに加え、天候と桜の開花状況にも頭を痛めながら過ごすのかと思うと、今から神にも祈る思いであります。

人集めといえば、関西支部でも参加者が年々減りつつあります。これからは学生を含めた若者の参加が、同窓会の存続と繁栄には非常に重要になってきます。そんな中、関東支部さんはすでに学生・若



手社会人交流会が軌道に乗られて、若年層が同窓会発展の大きな力になっておられる姿を拝見させていただいております。関西支部としましても、少しずつ仕組みづくりをしておるのですが、今後は是非とも関東支部さんのお力・お知恵をお借りしながら、同窓会の発展に努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、関東支部の皆様の方々の健勝をお祈りいたしまして、関西支部だよりとさせていただきます。

広島支部だより

長い間有り難うございました。
支部長 沖 修一(40回生)

初代会長の岡村進介先輩(30回 現：光輝病院院長)より支部長を引き継ぐように拝命して、約10年になりました。

た。昨年（平成21年11月28日）行われました広島支部総会で、私と一緒に役職に就きました事務局長の山崎迪子さん（40回）共々、同窓会広島支部の役職から身を引き、広島支部の新陳代謝を行う旨発表致しました。

私が支部長を拝命して最初に取り組みましたのが支部名簿のデータベース化でした。それまでは大きな紙に記載されていましたが、

そのようなデータベースでも共有できるようにエクセルに入力しました。毎日3、4人分ずつ入力して3ヶ月程度を要した記憶があります。この作業の結果、支部会員の住所がシルクファイルを紹介して住所録データベースに移り、タックシール印刷が可能となりました。支部会員への連絡が大変便利になったと同時にスピーディーになりました。

次に目指したのが支部総会の案内でした。それまでは会の内容と出欠を問う、全く事務的な内容の往復葉書でした。これを何とかパンフレットを兼ねた招待状のようなもの、受け取った方々が会に出席してみようと思うものにならないかと考えました。その結果、

ワードプロセッサやスプレッドシートではなく、ページレイアウトのソフトウェアを使い、絵や写真を盛り込んだ支部総会案内状を作成致しました。また会場案内もわかりやすいように、状況に合わせて内容が変更できるように、地図を手作りしました。この結果、できあがった物がA4サイズとなり、それまでの葉書から封書で支部会員に送る必要が出てきましたし、案内状を受け取る方々は、私の趣味に耐えなければならぬという欠点も生じました。

広島県は東西にも南北にも大きい県です。都市は主として瀬戸内海沿いに集まっています。この中で、県東部は経済圏・言語など県西部と異なります。県東部の支部会員にとっては、支部総会を県西部の広島市で行うため宿泊が必要という関係から、県東部の支部会員にはなかなか支部総会には参加していただけません。このために、平成20年より、県東部の各都市の支部会員持ち回りのような形で、広島支部懇親会の様な会を設け、支部役員が出席する様に致しました。この会で瀬戸内の魚料理に舌鼓を打った

結果、広島県東部の支部会員の顔も見え、関係が密になりました。

広島支部は、地方支部の宿命を背負っています。若い新しい会員になかなか参加していただけないということです。

私個人としては、土佐高を卒業し広島に來れば、当面自動的に支部会員になり、協力していただくと理解しております。御時世でしょうか、最近の若い人達は母校に

対する帰属意識に乏しく、皆で集まって物事を成し遂げるよりは、個人で楽しむ傾向が強いように思われます。また、同窓会会員名簿にも空欄が目立ち、連絡しようがありません。広島

の連絡先が分からなくて高知のご実家まで電話を入れると、押し売りなどと間違われ、けんもほろろの対応であつたりします。母校から広島

画のみは実現せずに、私の支部長は終わりそうです。

次期支部長には沖田道子さん（41回 旧姓松田）、事務局長には大倉準一さん（51回）が内定しています。正式には本年度（平成22年）の支部総会で決定されます。土佐高、同窓会本部、関東支部を始め各支部の皆様方には、今後も広島支部を育てて頂きますよう、伏してお願ひ致します。

私と事務局長の山崎迪子が、広島支部での役職を大過なく終えることが出来たのも、母校を始め本部、各支部の皆様

の御支援があつたればこそと感謝しております。これからは二人とも広島支部会員として同窓会を盛り上げて行くつもりです。

皆様、本当に有り難うございました。

（平成22年5月31日）

香川支部だより

事務局長 武山正人（40回生）

関東支部の皆さんこんにちは。大都会の真っ只中で、戦いの日々を過ごされている方も多い事と思います。お身体だけは大事にしてください。

それにしても、IPCCも真っ青というくらい今年の春は何か変でした。桜の花が咲き出して気温が冬に逆戻り、

東京では4月に雪が積もるし、5月になつても、初夏の日もあるし肌寒い日もあるし。今年ほど桜を長く見られたのは記憶にありません。気候不順の中で、ゴールデンウィークの人は出は半端ではありませんでした。故郷高知ではご承知「龍馬伝」で、桂浜を筆頭に大変だったようです。日銀は、経済効果は409億円と試算しているようです。

われわれの香川では、昨年102万人、今年98万人と、4万人減少したと新聞報道されました。1000円高速と好天続きで、高知にだいぶ取られたようです。

ご存知讃岐うどんも、この連休中は大変な人出であつたようで、綾川町（こんびらさんの近く）の山越えうどん（讃岐うどんの有名店の一つ）では、ピークには約3200人が訪れ、約6600玉を完売した。早い人は開店2時間前の朝6時から列を作ったとの事です。「恐るべし讃岐うどん」。このような時は、地元は近寄りません。小生は、

ふるさとへの手紙 (十四)

東京大学医学部医学科六年 吉川 裕貴 (80 年生)

「出身はどちらですか？」
「高知県です。」「ああ、あの龍馬の！」今年になつてこんなやりとりを交わす機会が増えました。その度にふるさとで過ごした時間が頭の中を駆け巡ります。こんにちは、80 年生の吉川裕貴です。

土佐高を卒業してはや五年。周りの同窓生達が大学を卒業して院に進学したり、就職を決めたりしていく中で、私は今年ようやく大学生活最後の年を迎えました。そして来年の春、医学部での六年間を終え、医師としての道を歩み始めます。今日はそんな私の近況をほんの少しお便りしたいと思っています。

私は現在、東京大学医学部附属病院にてBSLを行っております。BSLとはBed Side Learningの略で、病棟で入院患者さんを受け持ち、問診や身体診察を行ってカルテを書く、病院での実習のことです。患者さんとの日々のふれあいの中で学ぶことは実に多く、ゆつくりと、しかし確実に、自分の中に医師としてのProfessionalismが醸成されていくのを感じます。私は持論として「医療はScienceで

はなくCultureである」と考えていますが、医師を医師たらしめるのは、決して高度な知識や技術ばかりではなく、何よりもコミュニケーション能力だと痛感する毎日です。医療従事者と患者および医療従事者同士での意思疎通

(VerbalにしるNon-verbalにしる)こそが医療の本質、そ



Cleveland ClinicにてDr. Tomfordと

んな言葉をややうやく自分の内側から出せるようになりつつあります。

大学に入ってから、自分の活動の幅を広げることで視野を広げ、コミュニケーション力を高めたいと思いました。様々な機会に恵まれた私は、水泳部に入ったり、English

Debateの大会に参加したり、基礎系の研究室に通ったり、勉強会を主催したり、外部のセミナー・学会に参加したり、医学部の企画で代表をしたり、英国に語学留学をしたり、ジャグリングの舞台に立ったり、学部で学生組織を立ち上げたり、外国人観光客のガイドをしたり、他大学の医学生とコラボ企画をしたり・・・今振り返っても、本当に沢山の活動に参加し、大勢の人と関わってきました。そんなときふと頭に浮かぶのが、土佐高での櫓作りの想い出です。高三のときは、私のまづい設計のせいでずいぶん不細工な「生茶パンダ」が完成してしまいましたが、みんなで力を合わせて一つのことを成し遂げる喜びを学んだ、あの頃の自分の延長線上に今の自分が確かに立っているのだと思うと、何とも言えない温かい気持ちになります。

高校時代と言えば、主任団として私を支えて下さった英語の井上先生は、当時よく海外の話をして下さいました。口癖のように「外にどんな出でいかないかん。」とおっしゃる先生の言葉に刺激され、高校生の私は海外に対する薄ぼんやりとした憧れを抱いたものです。大学に入ってからその願望はますます強くなり、今年の春、念願叶ってアメリカはオハイオ州のCleveland Clinicで研修を行ってきました。初めての海外での病院研修であり、米国の医師国家試験を受験して、英語で履歴書を書いて、向こうの病院に応募して、と何から何まで初体験で、準備の段階から貴重な経験を積むことができました。さらに、言語や文化の壁の向こうにアメリカの医療を垣間見て、逆に「日本」という国を見つめ直すまたとない機会となりました。この経験を受けて、また近いうちに、海を越えて、世界を股にかけて活躍なさっている諸先輩方の後に続きたいと考えています。たとえ外国へと出て行っても、日本という、とりわけ高知という、自分の帰るべきふるさとがあれば、安心して果立っていきます。そして龍馬のように高い志と広い視野を併せ持った人間になる、という壮大な目標を掲げてはばたいていきたいと思っています。簡単ではありますが、私の近況報告はこれにてお終いです。最後になりましたが、今回この貴重な紙面をお借りする機会をいただき、本当にありがとうございます。筆山編集委員の皆さまと上岡様に心より御礼申し上げます。筆を置かせていただきます。

恥ずかしながらもまだ行ったことがありません。高知ではうどんなはすき焼きに入れるもので、切り口は丸いものと思っ

ている方、一度本場の讃岐うどんを食べてみてください。

最近では東京でもお店があるようです。

もう一つの話は「瀬戸内国際芸術祭2010」(注)「7月19日〜10月31日です。

「アートと島をめぐる百日間の冒険」という、副題がついています。この芸術祭は、会場となる七つの島に散りばめられたアートを道しるべに、心癒す瀬戸内海の景色と、そこで生まれた島の文化や暮らしに出会うことができる、現代アートの祭典。このように紹介されています。百日間ありますので、気候の良いときに一度おいでください。人口減の世の中、事業仕分けで地方の潤いがどんどん少なくなっている現在、四国を訪れる観光客を一人でも多く増やす努力が求められています。支部のメンバーは、都会の喧騒を遠く離れて、故郷に少し近い香川の生活に慣れ親しんでいます。

(注)

<http://setouchi-artfest.jp>



向陽新聞に見る土佐中高の歩み ①

— 学校再建と民主化への熱気伝える —

中城正堯 (30 回生)

『新聞向陽』の名で学校新聞が創刊されたのは、戦後の新学制により昭和22年に新制土佐中、翌年に新制土佐高校がスタートして間もない24年3月であった。翌25年には早くも第6号を刊行、紙面も従来のタブロイド版から一般紙のサイズとなり、第9号から『向陽新聞』と改題する。当時、旧制土佐中は戦火で校舎を焼失、川崎・宇田両家からの多額の拠金も戦後インフレで価値をなくし、廃校の危機に立たされたが、三代・大嶋光次校長のもとで人材育成という建学の精神を日本再建に結びつけようと、懸命の努力を続けていた。この連載では、戦後の母校発展の跡を『向陽新聞』の紙面からさぐってみよう。(文中敬称省略)

占領下の学園民主化と新聞

戦前は教育も国家統制のもとで皇民教育や軍事教練が強制されたが、戦後は米軍の占領下で教育の民主化がはかられた。六三制で中学までが義務教育になり、男女共学が打ち出された。大嶋校長は他の私学にさきがけてこの潮流を読み取り、中高一貫の男女共学に転換、定員も大増員に踏み切った。学園民主化の柱としては生徒会の設置と、生徒の自由参加によるクラブ活動(部活)の奨励があった。部活の中でも新聞部は、生徒の自主的な報道言論機関として学園民主化の重要な役割を担うこととなった。

敗戦時の土佐中生は県内各地で集団生活をしており、山崎和孝(26回)など1年生は高岡郡尾川村にいた。やがて高知市池の浦戸航空隊跡(現・高知女子大や高知医療センター)から兵舎の払い下げを受け、生徒一同も協力して運び、なんとか仮校舎を建てた。それと同時に部活が始まり、野球部・園芸部・文芸部・絵画部など続々誕生した。高1になった山崎が同級の西原道夫たちと新聞部創設を考えていた頃、中3の細木大麓・岩谷清水・岡林幹雄(27回)も同じ思いであることが分かり、一緒に結成した。

創刊号のトップ記事は「創刊に際して 大嶋光次」である。校長は日本再建に教育の民主化が重要なことや、個人の自由・生徒の意志反映による学園の明朗化、自治会の強化に触れつつ、「新聞向陽の発行の議が起り全生徒から自由に責任ある投稿を募って一般に紹介・・・せんとする事は確かに学園民主化の一方法である」と信じて疑わないが、新聞は社会の報道機関であるとともに其の属する社会の指導機関でもあるという責任を忘れてはならない」と述べている。隣に「救い難い敗戦気分」の記事があるのも時代の反映である。

論説は「学校生活に活気をもたせよ」で中3細木大麓、コラム「ひとりごと」は高1山崎で「高知女高(現丸の内高)と高知高(現追手前高)の自治会が二校合併を陳情」などの秘話が出ている。中2酒井芳美のエッセイ「小さきもの」には、早熟ぶりがうかがえる。高1山村泰造は「プロ野球展望」を堂々と論じている。「詩と俳句」から「笑話」まで掲載され、報道論説と文芸の総合紙であり、イリキ眼鏡店や哲学の店・田所文具店など、広告もしつかり集めてある。

昭和24年7月発行・第3号のトップは、「苦心の結晶われらの新校舎遂に落成」である。木造二階建新校舎落成式から、感銘深い挨拶として「時代の波にのれ そしておぼれるな」という、阿部孝旧制高知高校長の言葉を紹介している。落成式で表彰された町田義隆氏(工務店主)は「バラックを兵営跡から持ってくるのに走り回り、木材を手に入れたため」に大柄の営林署に校長が行った

た」と、さらっと語っている。後に掛水俊彦(24回)は、「大工の棟梁の姿で連日采配をふるった町田さんこそ隠れた功労者」と述べている。阿部の名言や隠れた功労者をきちんと取り上げたのは、当時の編集者の見識であろう。また、国立大学設置法案反対の風潮に流されてストに突入した生徒会の「苦い経験」への



昭和25年に仮校舎玄関前に集合した新聞部員。部長は中山剛吉。

反省記事もある。筆者も入学間もない頃、教室に先輩が来てアジ演説をした光景を覚えている。

学校ジャーナリズムの開花

昭和25年頃に新聞部で大活躍をしたのが岩谷清水であり、山崎は「彼はジャーナリズムのセンスに充ち、校内の事件を拾ってきたのはジャーナリストティックに取り上げた。生徒会と学校が対立したときに大記事を書いてきたが、大議論の末に少し控えめに紙面を割付けた。これが高知新聞記者の目にとまり、へこの小さい扱いは何事だ。学校新聞は学校の問題を掘り下げるのが使命だ」と厳しく指導をうけた」と、述懐している。この指摘は、次第に新聞部のバックボーンとして受け継がれていく。

創立者たちに続き、安部弥太郎(28回)や中山剛吉(29回)、さらに30回の多彩な部員が伝統を引き継ぐ。第8号からは林寛(28回・通称リンカーン)作の連載マンガ「向陽君」も始まる。安部が編集人の第11号トップは「伸びゆく本校女性徒たち」で、女子高生151



再掲『新聞向陽』創刊号と『向陽新聞』号外など。

名への新聞部調査から「受験先は薬学・医学が多数、将来結婚しない者26名、本校男子は不親切で利己的」など、女生徒のホンネを引き出している。「主張(論説)」も「女生徒の自覚と男生徒」と題して、5年目を迎えた男女共学を成功させる道をさぐり、さらに校外から婦人少年局高知職員室森沢文史の談話取材も行っている。二面トップの「上位を占める全面講和」は、

社研部による講和問題への高校生意識調査で、政治問題にも果敢にいんどんでいる。愛称パン子ちゃんで親しまれた英語・池田起巳先生のアメリカ招待留学決定も報じられ、やがて「アメリカだより」が登場する。

この頃、文化部・運動部とも大躍進をとげつつあった。堀詰座や高知中央公民館で開催された芸能発表会では、高塚準一郎の「俊寛」、西内総一郎(北村総一郎)の「煩惱無安(平維盛)」などが市民の間でも話題になった。北村が後に大活躍する素地は、この頃から培われていた。

大町玄編集人(30回)の第15号は、「新生日本の出発に当たって」がトップ記事で、昭和27年4月の講和条約発効に当たつての大嶋校長メッセージを掲載している。この号には、山崎・岩谷など新聞部先輩による東京支局開設が報じられ、早速「先輩訪問記」で東京同窓会の世話役を務めてきた同学校近藤久寿治社長(6回)の探訪記が載つており、独力で出版社を起こした経緯や後輩への期待が述べられている。

千原宏編集人(30回)の同年11月第17号は、トップに「全校舎ついに完成 これから内容の充実だ」の文字が踊っている。開校33周年・本館落成に合わせて、「開校記念碑文」の再評価を呼びかける記事も出ている。

学校・新聞の大躍進とゆがみ

昭和20年代後半の新聞部にとっては、文化事業の展開も忘れることが出来ない。27年には応援歌を募集、河野伴香先生の詩が入選し平井康三郎(5回)の作曲で、後に甲子園にも響き渡る「青春、わかき、血潮はたぎる・・・」が誕生した。これに戦前からの校歌・向陽寮歌、創立三十周年記念歌を加えた「土佐中高等学校落成記念に刊行した。同年(四国四県高等学校弁論大会)」

を開き、30年からは「先輩大學生に聞く会」を開始、31年には「小学館全国児童生徒図画作品展」を中央公民館で開催した。

昭和27年にはスポーツ新聞『向陽スポーツ』も刊行、28年には前年に続く春のセンバツ野球出場に取材記者を特派、夏には甲子園準優勝で湧く。翌29年には軟式テニスも全国優勝をとげた。向陽新聞も高い評価を得て、29年7月には第4回高校新聞指導教官講習会で、「高二Sホーム 生徒会廃止案提出」「英語に化したホームルーム」を扱った第22号が全国優秀五紙の一つに選ばれた。新聞部出身者と、

新聞出版関係に従事する卒業生によつて「向陽プレスクラブ」も結成された。33年の大嶋校長逝去の際には号外も発行された。

しかし校舎が完成し、進学での名声が定着、野球などクラブ活動が全盛を迎えるとともに、校内にはさまざまな「ゆるみ・ゆがみ」が生じ始めている。やがて中学入試問題の漏洩と同盟休校という大事件が発生し、新聞部も真価が問われることになる。(以下次号)

第14回 はちきん会

武山文子（33回生）

「龍馬伝」もスタートし、土佐に追い風が吹いてきた2010年1月30日（土）、寒さ厳しい時だが、第14回はちきん会の会場、横浜ロイヤルパークホテルのロビーは華やいでいた。着物姿も目に付く女生徒の第一号である28回生先輩はちきんたちは若々しい。今日は約80人の参加で、ナイトは37回生・宮本照武さん

と幸徳正夫さん。大先輩の宮地さんをはじめ、泉谷さん、浅井さんのお顔も見える。西森さんとさんの流暢な司会で始まった。佐々木泰子代表の強い吸引力で集まった33回生はなんと総勢11人。初めて出席された方も、若さ溢れる後輩達も大勢で、皆楽しそう。

美味しい料理の味を引き立てたのは、西岡商店特注（三浦三紀子さん提供）のシャトー



・ラ・ラム2007年の赤ワインだ。美しいガーネット色、フルーツとシナモンやバニラの味ほのかにする。食べて酔う程に、円卓での会話も年代を超えて弾んでいるようだ。ジャズピアノ演奏は70回生の田中智子さん。軽妙なタッチが気分を盛り上げてくれる。ナイトの心温まるお話もあり、銀座に新しくで



きる土佐のアンテナショップの紹介や名刺交換で新しい繋がりも生まれている。楽しい余韻を残して、ランドマークタワーに昇り、大型船の停泊する絵のような港ヨコハマの景観を堪能した。澤田千紘（78回生）例年になく暖かい気候のもと、1月30日（土）に第14回はちきん会が開催されました。本年度は、『横浜ロイヤルパークホテル』を会場に、約80名の方々にご出席頂きました。「はちきん会」はご存知の通り、土佐高同窓会関東支部の女性中心（今回は28回生か



ら大学生の83回生迄）の懇親会ですが、「ナイト」と称する男性陣のご協力によって、様々な素敵な会場で、破格の値段で（主に土曜日の昼時に）有意義で優雅なひと時を過ごしております。おそらく、女子高でもないのに「女子中心の同窓会」が繰り広げられるのは、日本全国探しても土佐高くらいではないでしょうか。毎年濃密な時間を過ごしています。



今年はプロジェクトアニストの田中智子さん（70回生）の演奏がとても印象的でした。「はちきん」らしい力強さと、遊び心のある演奏に、誰もが酔いれました。終了後の販売会では、すっかりファンになりCDを購入された方も多く、あつという間に完売！

「はちきん会」は私にとって、自身のキャリアや生き方を再考する場でもあります。会社を離れ、こうした場に参加できることは貴重ですので、ぜひ多くの若手の方にもご参加頂きたいものです。

そして、もっと幅広く多くの方にご参加頂き、毎年パワーアップする会になればと思います。ナイトの方々に感謝し、これからも「はちきん会」を宜しくお願い致します!!

今年も土佐高で受け入れ ガーナ高校生研修旅行

公文敏雄（35回生）

今夏で7回目となるガーナ高校生日本研修旅行の日程が決まりました。

セントピーターズ高校生ら一行20名は8月20日来日、東京・名古屋経由で8月31日高知入りします。今年、国際交流委員会を設置した土佐中・高では早速、受け入れを決めており、9月6日の離日まで始業式や授業・クラブ活動、農業体験、ホームステイ、交流の夕べなど多彩な行事で歓迎の予定です。



はじける若さ（スーパーよさこい2009）

加えて、土佐校生の間では先行の東京での交流（麻布学園が幹事）に遠征したいとの希望者が多く、10名以上が26日に上京、都内高校生主催の

文化交流会参加や「原宿スパーよさこい」での競演など、ミニ修学旅行を楽しみます。

8月29日（日）正午開始の「原宿・表参道スパーよさこい祭」では、日本・ガーナ高校生合同チーム「ロッテ・ガーナよさこい連」がトップスタートで表参道を行進するほか、各演舞場に登場します。後輩生徒たちの元気の演舞をぜひご覧ください。プロの指導のもと高知でみっちり事前練習してからの上京ですので、常連チームに負けない踊りが見られそうですよ。同窓会関東支部のお姐さん有志も踊られるとか、こちらもお見逃しなく。

なお、日本・ガーナ高校生国際交流を企画・推進しているのは「ガーナよさこい支援会」（後掲）。35回生の浅井和子さん（元ガーナ駐在特命全権大使）の呼びかけに応じて同窓会員中心に結成されたボランティア・グループです。

お問い合わせ先

「ガーナよさこい支援会」

千代田区紀尾井町4・13

マードレ松田ビル4F

浅井法律事務所内

（03）32334・3838

wakosai@white.plala.or.jp

弘瀬君を偲ぶ

柳原 正寛（37回生）

同級生の弘瀬君が急逝してから、早や、まる七年になる。この十月十七日、七年越しの念願だった彼のお墓参りを果たした。

当日は同級生の坂本君が、仕事で多忙の中にもかかわらず、わざわざ土佐山田駅から彼の墓所まで案内してくれた。お墓参りを終えて、永年の心の澱のようなものが、やっと流された様な気がした。

小生と彼との出会いは、小生が愛媛県新居浜市立西中学を卒業して、土佐高校に編入した時が初めてである。中高一貫教育の高校に途中から入学したので、不安がいっぱいであつたが、そんな中で、何くれとなく小生の面倒を見てくれたのが彼だった。

そして、高校を卒業して小生と彼は同じ慶応義塾大学に進学した。大学でも、学内のクラブで一時期、彼と共に活動したことがあり、また六大学の野球観戦等に彼が誘ってくれたりして世話になった。就職してから、小生は三菱信託銀行に入社、国内の地方店舗勤務が大半で、一方、

彼は石油開発関係の仕事に従事して海外生活が長かったのだ、東京で開かれたクラス会の折などに一、二度しか会った記憶しかないが、その時に彼から海外の石油開発現場で大変な苦労話を聞いた。彼はその困難な仕事を持ち前のフアイトと明るい性格で乗り越えたのだと思う。

小生が、五十歳になった直後、勤務先の銀行から日本橋にある某社に外向を命じられた。彼はその時分、日比谷にあるジャパン石油開発に勤務しており、時折彼のオフィスを訪問して談笑し、随分と元氣付けられた。又、彼の会社

に電話を掛けた時には、彼が平気で、土佐弁丸出しの大きな声で「おんしは元氣でやりゆうか」と話すのには、吃驚したものである。

それなのである、彼が死を覚悟した入院をした時、彼が「皆に会って話したい。」と言っているのを聞いたのにもかかわらず、小生は病院に一度も行かず、世話になったお礼も言わなかった。それは、死を前にした友に会うのが切なくて、怖かったからだ。

そんな訳で、彼に世話になったおれを言う機会を永遠に逸

したことが、心の澱になっていて、せめて彼のお墓にお参りをするのが念願になっていた。

来月には、東京・八丁堀の土佐料理の店「四万十」（そこは彼の馴染の店で、店主は土佐中村出身）に行き、彼のお墓参りをしたことを報告し、彼の奥様の実家である土佐中村の醸造元が造る日本酒「藤娘」を飲みながら、彼を偲びたいと思っている。合掌（平成21年11月26日記）



季節のふるさとの味

土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

江戸の祭り

神田祭

41回生 西岡恒憲

五月三日から九日まで神田明神のお祭りだった。江戸の夏は明神様のお祭りである。今年は陰祭りの年で町神輿（まちみこし）は出ない。去年が二年に一度の本祭りである。基近い町神輿が出た。それでも毎年、江戸一番の明神様の祭りを見に行く。今年は町神輿は出ないが宮神輿（みやみこし）が一基出る。

九日は晴れた日で、午前八時の宮神輿の発聲（はつれん）を見るため家を早く出た。御茶ノ水駅で電車を下りて聖橋にかかると、目前に湯島聖堂の階段状に連なった海鼠（なまこ）堀と、銅板葺の屋根が、鬱蒼たる聖堂の杜の若葉とともに、初夏の明るい日を浴びて輝いていた。

聖堂の北側の道路を挟んだ向かいに神田神社がある。入口の大鳥居の下にはもうかなりの人数が出ている。参道の両側には露天商の屋台がずつと連なっているがまだ開店前で準備中。

神田神社の主祭神の一つは平将門である。



これは江戸時代に、判官びいきの江戸っ子が、神田神社に勝手に付け加えた神様だと筆者は思っているが、今は将門だけしか知らない人のほうが多い。

江戸の三大祭りというのは、日枝神社の山王祭、神田明神の祭、富岡八幡宮（深川八幡）の祭を言う。四大祭りと言えば浅草の三社祭が入ってくる。三大祭のうち山王祭と神田祭は特に盛んで、江戸時代には天下祭りと呼ばれた。これは將軍家が山王祭と神田祭の山車（だし）を江戸城に引き

入れさせて、將軍の家族や御殿女中や居並ぶ大名達に見物させたので、天下祭りと呼ばれたということになっている。三田村鳶魚翁によると、附

け祭り（山車）が千代田城内に入つたのは、山王祭のほうから早く、二代秀忠將軍の元和元年（1605）からで、神田祭の方は五代綱吉將軍の元禄元年（1688）九月十五日からである（江戸時代の神田祭は九月十五日を中心に行われた。明治以後五月十五日前後に行われるようになった）。

千代田城内の吹上馬見所を將軍の上覧に供したのだが、享保の改革、寛政の改革、天保の改革の幕政改革期には一時禁止されていたこともあった。

日枝山王神社と神田神社は江戸中の氏子（神道の信者）をほとんど二分するほどの勢いを保持していた。日枝山王社は徳川將軍家の産土神（うぶすながみ）であり、神田神社は江戸総鎮守として主に庶民の信仰を集めた。両祭はそういうわけで江戸時代に非常に盛んになり、段々派手になって、大金を費消するようになったので、幕命で本祭りは二年

に一度の開催に改められ、間の年は山車が出ない小規模な陰祭りをやった。つまり、日枝山王神社と神田神社は一年おきに交互に本祭りをやったわけである。

昔から江戸っ子は江戸の三大祭りを称して、「神輿深川 山車神田 だっ広いが山王様」と言ったが、この通り神田祭は山車で有名であった。山車は5mを超す高さがあるものがほとんどであり、山車の天辺に飾られる山車人形は各町によって決まっていた。江戸時代後半を通じて変わらなかった。一番山車は大伝馬町「諫鼓鶏（かんこどり）」、二番南伝馬町「猿」、三番旅籠町「一丁目（翁）」と巡幸の順番も変わらなかった。

しかし明治も半ばを過ぎて、町中に電柱が立てられ電線が張り巡らされると、山車の巡幸はできなくなり、替って人の担ぐ神輿の渡御（とぎよ）が中心となった。

江戸の昔から山王祭は山の手気分だが、神田祭は下町気分、殊に江戸っ子を振り回したのは神田祭だ。

江戸に住む者全てを江戸っ子と呼んだわけではなく、武

母校・同窓会本部・各支部

- 土佐中学・高等学校 事務局 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosa.ed.jp/index.html>
- 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) <http://www.tosaobog.com/>
- 同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
(TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp
- 同窓会香川支部 事務局長 武山正人 (担当：大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
(TEL) 050-8801-2720 (FAX) (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp
- 同窓会広島支部 事務局長 (新) 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
(TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (Email) spat5629@vesta.ocn.ne.jp
(HP) <http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/>
- 同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒530-6001 大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内
(TEL) 090-1073-7822 (FAX) (E-mail) harada73@hotmail.com (HP) <http://www.tosa-ko.org/kansai/>
- 同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301
(TEL) 052-837-5834 (FAX) (E-mail) jjingu-m@crux.ocn.ne.jp
(HP) <http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/>
- 同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング
森・濱田・松本法律事務所弁護士市川直介 付
(TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com

士や上流町人は江戸っ子とは言わなかった。庶民階級でも下層の、職人や棒手振り（ぼてふり）や魚河岸の連中や鳶（とび）などが、江戸っ子だと言って肩ひじを張っていたのだ。この連中が神明明神のお祭りに熱狂した。特に熱狂した連中は、一日の祭りに身代を潰しても参加した。矢田挿雲翁はこう書いている。

「お祭りが近づくとう江戸っ子、仕事も何も手につかず、（中略）山車人形の着物の費用を出し合い、七日や十日は仕事を休んで浮かれ通す。」

また、三田村鳶魚翁が自分で聞いた実話を紹介している。「我等（わたし）の祖父の話に、天保（1830～）の頃、

（神田）須田町に懇意な大工の棟梁があった。その娘を神田祭の踊り屋台に出したが、その費用のために、（中略）九月も末になると夜逃げをしてしまった。何でも三百両も掛かったのであろうと聞いた。」

宮神輿（みやみこし）の宮出しの時は、まず宮司によって祝詞があげられ、お祓いがある。そのあと拍子木の合図とともに、担ぎ手が一気に神輿を担ぎ上げ、



「ヨイサー！チヨイサー！」と、掛け声をかけて担いでゆく。

また宮出しの時は、鳶頭衆の「木遣り」の大合唱が神輿を先導してゆく。鳶姿の俵（いなせ）なお兄さんが扇子を鼻の上に開いて「ヤア〜」と木遣りを搾り出す、と言いたいのが、今どき木遣りを唄えるのは、筆者より年上の爺さんばかり。しかし、江戸木遣りの唄い口の粋さは、いなせな江戸っ子が伝えた江戸独特のものであり、江戸芸のもっとも冴えたるものである。

また神田祭独特の底抜け屋台で、神輿を先導しながら神田囃子が演奏される。地元の

神田囃子保存会の人達の見事な演奏が披露されていた。

神田囃子は日本の祭り囃子の定番で、笛と太鼓と鉦（かね）の緩急自在のリズムに耳を澄ませていると、遠い昔の祭り情緒が懐かしく胸によみがえり、飽かず、何時間でも聞いていられる。

久保田万太郎に江戸の祭りを詠んだ句がある。

神田川祭りの中を

流れけり

（神田祭）

神輿まつ間のどぜう汁

すすりけり

（三社祭）

神田・日本橋界限は、三越本店も旧三井銀行本社も神田の浅田飴も龍角散も秋葉の電気量販店もみんな江戸一番の明神様の氏子だ。

（平成22年6月10日 記）

〈参考文献〉

・江戸から東京へ（第一巻）

矢田挿雲

・論考「神田まつり」

（三田村鳶魚全集第九巻）

同「江戸の民衆娯楽」

（鳶魚江戸文庫第五分冊）

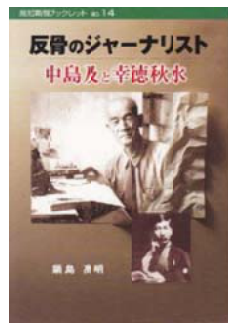
三田村鳶魚

・江戸名所図会

（復刻版）斎藤月岑 他

新刊案内 出版レーダー号外

鍋島高明（30回生）



「反骨のジャーナリスト

——中島及と幸徳秋水——

800円 高知新聞社 2010.1

土佐という反骨の土壌に生まれた中島の96年の生涯は、秋水の文章を愛し、直接聲咳に接したことで「反骨のジャーナリスト」という棒のようなもので貫かれていた。

廣瀬裕子（60回生）（翻訳）
ペンネーム 高遠裕子



「20歳のときに知っておきたかったこと」スタンフォード大学集中講義」

ティナ・シーリグ著

1470円 阪急コミュニケーションズ

2010.03

門田隆将（53回生）



「この命、義に捧ぐ

——台湾を救った陸軍中将根本博の奇跡——

1680円 集英社 2010.04

編集後記

子育て初心者をつぶやき

11月に男の子を出産し現在育児休業中です。子供の世話と家事に追われ、優雅な専業主婦ライフとはほど遠い毎日ですが、子供の笑顔に癒されつつ、イクメン（育児をする男性）の主人のおかげで楽しく子育て業に専念しています。

子供を持つてよかったと思うことは自分が親にどのようにならなければならないかよく分かることです。どれほど手をかけ、愛情をかけてくれたことか。両親の気持ちの思うと、体が辛い日でも笑って子供と接することが出来ます。

（M・E）



★出版レーダー★

倉橋由美子 (29 回生)

「大人のための残館童話」(オーディオブックCD 6 枚)

2009. 11 6930 円 このは出版

鍋島高明 (30 回生)

「僕等の相場所・マムシの本誌」

2010. 03 1890 円 パンローリング

「一攫千金物語―日本相場所群像―」

2009. 11 1890 円 河出書房新社

田島征三 (34 回生)

「やぎがめめえ」 735 円 福音館書店

2010. 06 「ねずみじようど」(おはなしのたからばこ31)

2010. 05 1350 円 フェリシモ出版

2010. 01 「さらば、おやじの」 3990 円 理論社

柿田睦夫 (38 回生)

2010. 01 「宗教のないお葬式」 1575 円 文理閣

塩田潮 (40 回生)

2009. 12 1995 円 日本経済新聞出版社

西村繁男 (40 回生)

2010. 04 「じくくのラーメンや」 1155 円 教育画劇

2010. 04 「少年リードム」 540 円 新潮社

2010. 04 「少年リードム」 540 円 新潮社

2009. 11 「少年リードム」 540 円 新潮社

黒鉄ヒロシ (41 回生)

2010. 03 「龍馬の世界認識」 3360 円 藤原書店

杉山雄一 (41 回生)

「薬物の消化管吸収予測研究の最前線」

2010. 03 3150 円 メディカルドゥ

2010. 02 「創業科学の魅力」 7875 円 廣川書店

高山宏 (42 回生)

「おとぎの『アリス』オリジナル版 改訂新版」

2010. 05 「ほろぷらシンク絵本」 2415 円 ほろぷ出版

2010. 02 「機械仕掛けの歌姫」 3990 円 東洋書林

坂東真砂子 (51 回生)

2010. 04 「バイリンの寺」 5300 円 文藝春秋

2010. 03 「ブリギッ」 2205 円 角川書店

2009. 12 「午前零時」 4600 円 新潮社

「鬼に喰われた女 今昔十年物語」

2009. 11 4500 円 集英社

英保未来 (54 回生)

「不思議の扉」(編) 5400 円 角川書店

2010. 03 「不思議の扉」(著) 5400 円 角川書店

2010. 02 「NOVA」 998 円 河出書房新社

森岡浩 (55 回生)

「決定版 新潟県の名子」

2010. 04 14700 円 新潟日報事業社

「交渉の達人」デーバック・マルホトラ、マックス・H・ペ

イザーマン(著) 森下 哲朗、高遠 裕子(翻訳)

2625 円 日本経済新聞出版社 2010. 05

「ここからは雑誌に掲載されています」

鍋島高明 (30 回生)

「実録 相場所 鈴木久五郎(その2) 東鉄値上げの早耳で巨利

2009. 11 東株を買占め改革促す」 FFC world. 9(11) [2009. 11]

「実録 相場所 鈴木久五郎(その1) 日露戦争景気で成金主バ

2009. 10 「崩壊で破綻」 FFC world. 9(10) [2009. 10]

「実録 相場所 霜村昭平(4) キャンブルよりも相場をやろう

2009. 9 相場の緊張感が若く保つ」 FFC world. 9(9) [2009. 9]

田島征三 (34 回生)

「こんなには、絵本作家さん 田島征三 未知なるアートを体感

2009. 秋 しよう」 この本読んで! 9(3) (通号 32) [2009. 秋]

尾池和夫 (34 回生)

「対談 学がとて生きた」と、そして明日」

2009. 秋 尾池和夫(前京都大学総長) 益川敏英(08 ノーベル物理学賞)

2009. 07 季論21 (5) [2009. 07]

大橋一章 (36 回生)

「クソノキ像の源流」 奈良美術研究 (10) [2010. 3]

野田正彰 (37 回生)

「34 歳女、婚カツ、詐欺師 病的虚言の世界に咲いた大輪の花

2009. 11 (ワイド 捜査の攻防)」 週刊朝日. 114(55) (通号 4978) [2009. 11]

柿田睦夫 (38 回生)

「葬儀ができない! ― 貧困が『お別れの儀式』を襲つ

2009. 9 女性のひろば (通号 3867) [2009. 9]

塩田潮 (40 回生)

「この人に聞く 古賀伸明・日本労働組合総連合会会長 パート

2010. 5 や中小企業の組織化が急務 働く者の政策を実現する大きな原

2010. 5 動力になる」 ニューリーダー. 23(5) (通号 2712) [2010. 5]

「FOCUS 政治」 「ポスト鳩山」をめぐり、消費税増税の地なら

2010. 5 「か」 週刊東洋経済 (6239) [2010. 5]

「この人に聞く リーダーに必要な上手な脳の使い方 左脳は自

2010. 3 分に対して 右脳は他人に使うもの」 ニューリーダー. 23(3) (通号 269) [2010. 3]

「伊藤肇夫×上杉隆×塩田潮 民主党を知り尽くした3人が明

2010. 3 かす「真実」鳩山首相と小沢一郎「バカ」とテポ」の壁―

2010. 3 国民が投じた一票はムタだったのか!! 民主はダメ、自民もイ

2010. 3 ヤ、ではどうする?」 週刊文春. 52(10) (通号 2567) [2010. 3]

「FOCUS 政治 激震走る自民党 明日はあるか」

2010. 3 週刊東洋経済 (6233) [2010. 3]

「FOCUS 政治 小沢幹事長はいくまで「居座り」を続けるか」

2010. 2 週刊東洋経済 (6247) [2010. 2]

西村繁男 (40 回生)

「私の新刊「内田麟太郎・文 西村繁男・絵」ありがたしよ

2009. 11 うば(ぶんご)と」 ぶんごの本. 35(11) (通号 418) [2009. 11]

黒鉄ヒロシ (41 回生)

「第14回菜の花忌シンポジウム『坂の上の雲』が描いた魂と

2010. 3 した日本人の精神」 週刊朝日. 115(10) (通号 4996) [2010. 3]

「殿様(徳川慶勝の幕末(賢者は歴史から学ぶ―古代〜明治

2009. 秋 篇) ― (私が学んだ日本史上の人物)」 文藝春秋 special. 3(4) (通号 10) [2009. 秋]

杉山雄一 (41 回生)

「創業における Bio-Vitro ヒト組織細胞を利用した薬物動態・

2010. 11 薬効・副作用予測の重要性 (ANIMI ヒト幹細胞)による薬物代謝

2010. 11 ・トランスポート・副作用予測・P-glycoprotein 細胞・間葉系細胞を

2010. 11 用いた新たな創薬スクリーニング」 医学のあゆみ. 232(2) (通号 2783) [2010. 11]

「迅速化する医薬品開発―ヒト薬物動態の予測法およびマイク

2010. 11 ロードジキングの手法に基づく革新的創薬技術(新薬展望2010)

2010. 11 ―(新しい創薬技術)」 医薬ジャーナル. 46(S1) (通号 553) (増刊) [2010. 11]

高山宏 (42 回生)

「エンサクルメント―沖しきが若し(特集「伊藤若冲―

2009. 11 動植物絵巻」・モザイク画「象と鯨図屏風」:永遠に新しい

2009. 11 絵師のすべ)」 ユリイカ. 41(14) (通号 574) [2009. 11]

森岡正博 (52 回生)

「『双書zero』創刊記念特別対談「小さな世界」に閉じこも

2009. 10 ることが、なぜ悪いのか? 特集「『双書zero』創刊1 時代が、

2009. 10 世界が、見えてくる!」 ちくま (通号 463) [2009. 10]

門脇護 (53 回生)

「スポーツドキュメント「あの一瞬(最終回)サッカー「メキ

2010. 4 シュ五輪・銅」 奇跡はなぜ起こったのか(後編)」 新潮5. 29(5) (通号 337) [2010. 5]

2010. 4 「オウム凶悪犯罪 15 年の修羅 Voice」(通号 388) [2010. 4]

2010. 4 「スポーツドキュメント「あの一瞬(第11回)サッカー「メキ

2010. 4 シュ五輪・銅」 奇跡はなぜ起こったのか(前編)」 新潮5. 29(4) (通号 336) [2010. 4]

2010. 4 「スポーツドキュメント「あの一瞬(第10回)女子ソフト奇跡

2010. 4 の「金」をもたらした女の輪廻」 新潮5. 29(2) (通号 334) [2010. 2]

英保未来 (54 回生)

「『新版』世界SF全集を編む(第3回)」

2010. 5 「『新版』世界SF全集を編む(第2回)」

2010. 5 「大森望の新SF観光局第12回 浅草のいい世界」

2010. 5 「『新版』世界SF全集を編む(第2回)」

2010. 4 「『新版』世界SF全集を編む(第2回)」

2010. 4 「大森望の新SF観光局第11回 柴野さんの」

2010. 4 「時をかける」時をかける少女」

2010. 3 キネマ旬報 (1553) [2010. 3]

「テッド・チャン・インタビュウ(2009年度・英米のF

2010. 3 受賞作特集」 SFマガジン. 51(3) (通号 698) [2010. 3]

2010. 3 「インタビュウ 三崎典記「掃除」で国家に挑む、前代未聞の

2010. 3 スポーツ青春小説 本の旅人 16(3) (通号 173) [2010. 3]

2010. 3 「WONDER WORK」文庫1000点突破記念特別対談 岩郷重力

2009. 12 ×大森望」 SFマガジン. 50(13) (通号 645) [2009. 12]